

2025年  
1月1日 (水)TOKYO  
MAIL NEWS

新年号

J R 東日本輸送サービス労働組合  
東京地方本部  
〒115-0053 東京都北区赤羽台 4-1  
TEL 03-6803-2680  
FAX 03-6803-2681  
MAIL tokyo@jtsu-e.com

仲間同士の絆で地域社会に共感を広めながら、平和で安心できる時代を創りだそう！

J R 東日本輸送サービス労働組合 東京地方本部 執行委員長 中山 貴宏

新年明けましておめでとうございます。昨年、世界各国で選挙がおこなわれた「選択の年」でありましたが、今年に移り行く時代の幕開けとなる重要な一年になります。「新たな時代」を創り出すのは今を生きる私たちであり、私たちの選択と行動によって導かれます。そして、絶対に選んではいけないのは「戦争への道」です。世界を見れば、未だ収束が見えない軍事衝突によって、核戦争の脅威が広がっています。昨年、世界の核兵器廃絶を訴え続けた「日本原水爆被害者団体協議会」にノーベル平和賞が授与されましたが、戦後80年を迎えた今日、改めて「平和」について考え行動していかなければなりません。

今年「地方ローカル線のあり方に関する提言」が示されてから3年目を迎えるようになっています。この間私たちも労働組合として、36路線72区間の現地調査行動を行ってきましたが、その中で列車ダイヤや駅の設備など、JR側の問題も多く見えてきています。昨年は、久留里線の一部区間を廃止しバス輸送に移行する方針を示しましたが、改めて

公共交通機関を担うJR東日本の社会的使命と役割について考える必要があります。一方で、ここ数年多発する事故や事象、輪軸のデータ改ざんなどの不祥事が後を絶ちませんが、原因の根源はこの数年にわたる人事施策です。今の会社姿勢は、人に蓄積された経験や専門性をシテムに置き換え、鉄道の安全性さえも効率化しています。また、労働組合を敵視した人事差別を繰り返すことにより、不公正な付度が生み出され倫理観が失われています。その結果、鉄道事業総体が素人化し「顧客軽視」の実態に陥っています。

今年「統括センターや常磐緩行線のワンマン運転など大きな組織再編がおこなわれますが、何かあった時に頼れるのは人の力です。気候変動の影響から自然災害が多発していますが、防災の視点からみても適材適所に人を配置し、教育訓練によって人に力をつけることが必要です。改めて安全で安心できる公共交通機関を創り出すために「輸送サービスのプロ」をめざしていきましょう。JR東日本というのは公益企業です。

国民の生活に不可欠な鉄道輸送に携わる職場が不法行為の蔓延する無法地帯であってはならないことは誰もが理解することです。

昨年「脱退パワハラ訴訟」については、勝利判決と到達点を確認することで区切りをつけましたが、今後は「ビジネスと人権」に基づいて、JR東日本から「労働ハラスメント」を根絶させていきます。職場で発生する全てのハラスメントに対しては曖昧にせず、団体交渉や第三者機関を活用しながら健全な企業につくり変えていきましょう。

私たち輸送サービス労働組を結成してから5年が経ちました。これから待ち受ける時代は、他者との共生なしには生きていけません。そのために、私たち輸送サービス労働組が「中間共同体的役割」を果たし、変化に適應できる多様性をもって地域社会と連帯しながら自立分散型・共生社会の実現をめざしていきます。そしてそのために、仲間同士で支え合い共感を広めながら、JR東日本輸送サービス労働組合への結集を呼び掛けていきましょう。そのことを申し述べて新年のあいさつとします。

# 輸送サービス労組 結成から5年！

## 日常活動を通じた組織強化・拡大の実現と

## 健全な経営を取り戻し、安心して働きがいの

## 持てる労働環境を展望する輸送サービス労組

## 運動を全ての仲間と共に切り拓こう！

# 2025年 新年のごあいさつ



## 地本サークル連絡会 会長 朝田 淳

新年明けましておめでとうございます。

サークル連絡会は、昨年11月に第4回の総会を開催しました。現在は13のサークルが活動を展開しています。コロナ禍の影響で休んでいたサークルもありましたが、バスケット部は「練習会」を再開し、釣り部では「海釣り大会」では11月に40名を超える参加で、船3隻を貸し切り「大漁」と大成功の報告がありました。また、音楽部では6月に70名を超える仲間の参加で「ライブ会」を開催するなど、以前よりも活発に活動しています。

各支部においても独自のレクを開催しています。その中でも、東京支部は1月の「餅つきレク」に始まり、サマーレク、いも煮会、バーベキューなど多くの仲間と家族の結集のもとで取り組んでいます。

今年の干支は「巳（へび）」です。へびは脱皮をし、成長することから「復活」と「再生」を意味すると言われています。へびのような成長を学び、今後もサークル連絡会は各部、各支部との連携のもと“楽しく元気に”活動を展開し「組織の強化と拡大」を目指して取り組んでいきます。

## 健全なJR東日本・グループ会社をめざし起ちあがった仲間と連帯する会 代表 高橋 正憲

東京地本組合員・家族の皆さま 新年明けましておめでとうございます。

輸送サービス労働組合を結成してから5年目を迎える節目の年です。今年こそ反転攻勢の年にしようと、私ども連帯する会は決意を新たにしています。

東京地本の活躍で昨年1月、取手市議会選挙で細谷典男議員、10月の解散総選挙では鈴木ようすけ議員など、議員懇談会に結集する議員の当選で陣容を拡大しました。国土交通省の運輸交通委員会では福島のおぶゆき議員や青木愛議員の尽力をいただき「最近のJR東日本おかしいではないか？」と人を大切にしない経営に疑義を投げかけ、その声は党派をこえて広まっています。しかし、この会社は丁寧な説明をすることなく強引に数字ありきの企業運営に徹しています。また、上野支部の皆さんはワンマン運転の問題点を地域住民・利用客に訴えました。また足立区小椋修平議員や松戸市岡本ゆう子議員は「安全は大丈夫か」と議会で質問しました。これまでの選挙だけの付き合いから、JR東日本の劣化する施策運営に議員懇の知見を借りながら共に行動し是正を迫る取り組みを展開しています。

12月5日のバス棚倉裁判は「申請却下」と中央労働委員会の二重写しでした。悔しい思いではありますが、原告・佐藤君を東京地本の皆さんの厚いご支援で包んでいただきたい。弁護団から指導いただき控訴し、会社の違法行為を許さないたたかいを私ども連帯する会は継続して応援していきます。

東京地本は7項目の東京労働委員会への救済申請と、更に追加申請の事案が調査期日の状況にあります。この課題解決に向けて邁進していきましょう。特に、運転職場から営業職場に強制転勤を命じられた仲間の多くは仕事ができないと悩み苦しんでいます。悩んだ末に病気や退職を余儀なくされる組合員をこのまま放置できない、何とか救えないかと「営業アカデミー」なる勉強会を開催して、悩みを共有しています。仲間を大切にして組織に責任をもつ先駆的な実践をされています。

2025年が輝かしい飛躍の年となりますよう、東京地本組合員各位の奮励努力を期待申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 地本エルダー連絡会 会長 甲賀 栄昌

組合員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年は輸送サービス労組を結成して、まもなく5年を迎える年であります。今日までの輸送サービス労組の運動は職場で働く組合員の課題に正面から向き合い、組合員と共に課題を改善するために運動を創ってきたと言えます。それは、エルダー組合員にも言えることです。それは、エルダー組合員には定期昇給がない中で、2年連続してベースアップを勝ち取っていただきました。また、初めて団体交渉の席にエルダー組合員が同席して、グループ会社の現実や実態を直接会社に訴えることができました。今後も組合員のための運動を展開し、輸送サービス労組の組織強化・拡大を現役組合員と共に推し進めていきたいと思ひます。

東京地本エルダー連絡会の課題は、昨年12月8日に開催した「第4回総会」の中でも意見として出されました「要員問題やグループ会社によって生じる賃金、休日手当の格差」です。これらの課題を少しでも改善できるようにすることです。それには、エルダー組合員が所属するグループ会社を把握するために、全エルダー組合員の協力を得ながら「アンケート」を取り組んでいきます。

最後に、今年は「戦後80年」を迎えます。二度と戦争のない平和な社会と安全で働きやすいJR東日本・グループ会社を創造するために東京地本エルダー連絡会は、現役の皆さんと共に奮闘することを明らかにして「新年のあいさつ」といたします。よろしくお祈りいたします。

## 地本友の会 会長 仲野 泉

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、元日に能登半島で大地震が発生、翌2日には、海上保安庁の航空機に日本航空の旅客機が衝突し5名の死者を出すショッキングな年明けとなりました。能登半島地震では、私たち友の会も地本と連携し「義援金」の取り組みを行ってきました。会員の皆さまのご協力ありがとうございました。今、地球規模での気候変動は国内外を問わず、自然災害が常態化しています。地球温暖化防止が喫緊の課題となっています。

4月には「脱退パワハラ控訴審判決」があり、控訴棄却も一審判決を堅持し、うち1名については「不当労働行為」を認め「損害賠償」を命じました。会社による不法行為が広く社会に明らかになった大きな成果として確認できると思ひます。

10月に行われた「衆議院選挙」では、自公与党は過半数を割り、国政のあり方が大きく変化しました。新たに発足した石破政権は「我国の防衛力の抜本的強化を着実に進める」として新たな戦前へと向かっています。戦争政策に断固反対していかなければなりません。

11月16日、JR東日本は「ワンマン運転の拡大」をプレスで発表しました。会社はこの間、新幹線での架線垂下、列車分離等、大きな事故が続発しています。安全の確立なくして会社施策の取り組みはあり得ません。ジョブローテーションを名目に、運転職場からベテラン社員の強制転勤が今後の鉄道輸送を危険にさらすことがあってはならないことであり、これまでの会社施策の検証が必要です。職場で苦闘している若い仲間へ寄り添い、友の会も共に奮闘してまいります。本年もよろしくお祈りいたします。